

テーマ「地域リーダーの育成」

【 市民評価委員の質問及び意見と事務事業担当課の回答 】

対象事業名		1 地域づくりコーディネーター養成講座	
No.	質問・意見	担当課の回答・考え方	担当課
1	<p>【追加資料】</p> <p>「地域づくりコーディネーター養成講座」受講者の感想、要望等のアンケートか意見書があったら提示願います。</p>	<p>・「追加資料1-1(P1)」をご覧ください。</p>	
2	<p>【追加資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費の内訳(講師、会場料等) ・受講者の地域別、年代等 ・受講者の声、アンケート調査の資料 	<p>・「追加資料1-1(P1)」をご覧ください。</p>	
3	<p>【意見・提案等】</p> <p>・事業の必要性、目的は理解できます。講座内容に関してH22年度当初は、47名の受講者数でしたが、年々減少となっていく中で、H24年度講座内容も改善・見直しされたのですか。グループワークの手法を導入されていますが、一年ごとに検証していく必要性を感じます。</p>	<p>・講座を行うに当たり、前年度の受講者のアンケートや前年度の講座内容を踏まえて委託先である長野大学と当該年度の講座内容を検討しています。</p> <p>平成22年度や平成23年度の受講者にも継続してご参加いただきたくようご案内しております。</p> <p>平成24年度の受講者からアンケートを回収しているところですので、今年度は受講者の声のほか、委員の皆様のご意見を参考にさせていただき予定です。</p>	
	<p>・このような内容の講座では、社会教育分野における生涯学習でも可能では？</p>	<p>・ご指摘のとおり、地域づくりは人づくりであり、まさに生涯学習と表裏一体であると考えています。生涯学習として公民館等での講座も可能であると思われます。</p> <p>具体的なご提案がありましたら参考にさせていただきます。</p>	
	<p>・大学の講義内容のようなカリキュラムでは市民に魅力がないのでは？</p>	<p>・当該年度のカリキュラム、開催時期等は前年度の結果等も踏まえて委託先である長野大学と検討して決めています。</p> <p>具体的なご提案がありましたら参考にさせていただきます。</p>	
	<p>・市民にとって分かりやすい、参加したくなるプログラム構成が必要</p>		
	<p>・講師、大学等の事情もあるでしょうが、年度の事業として行うには、8～3月の期間は一考の必要があります。</p>		
<p>・市民への周知広報、開催時間、費用等も見直し改善の必要性を感じます。</p>			
<p>・受講修了者の活躍の場、機会の確保も必要</p>	<p>・受講者のなかには、講座後の実践となるわがまち魅力アップ応援事業を活用した地域づくりに取り組む方も現れています。受講者が今後も地域づくりに関与いただくことを期待しています。</p> <p>具体的なご提案がありましたら参考にさせていただきます。</p>		

	<p>・講座内容の見直し、改善策 座学(基礎)→ワークショップ(合意形成の場) 市民一人一人の自立や主体性を高めていく方法として有効</p>	<p>・本講座は前半は座学、後半は同じ地域課題を持った方々によるグループで地域課題の解決方法等について御検討いただいています。 講座終了後はこれらの経験を踏まえて、地域づくりの中心として実践(行動)していただくことを期待しています。 具体的なご提案があれば参考にさせていただきます。</p>	<p>市民参加・協働推進課</p>
<p>4</p>	<p>【質問】 合併協議(7年前)で言う、「地域内分権」とは何か。大都市でもない、小都市の上田市(16万人弱)で何の狙いがあるのか。組織の拡大のみで、ひいては市民の負担増につながる恐れある「地域内分権」は現時点で見直すべきと思うが見解は？ (一部の県都府で要望している道州制を前提としている地方分権(人・物・金を地方に)は何となく理解できるが。)</p>	<p>【地域内分権の狙い】 ・地方分権の進展に伴い、地方自治体は自己責任・自己決定による地域の個性と特色を生かしたまちづくりや行政経営が求められています。また、自律的な行政経営や地域経営を進めていくためには、どのような考えでどのようなまちづくりをするのかを明らかにするとともに、市民の皆様が市政に参画するための基本的な考え方を始め、まちづくりに関し、的確に判断、決定できる条件や仕組みの整備が必要になっています。 このようななかで、上田市は旧4市町村による分権型合併を選択し、新市建設計画において「行政まかせにしない住民主導のまちづくり」、「小さな単位を大切にする一体的なまちづくり」など市民の参加と協働による新たな視点を持って取り組んでいます。こうした取組を市民の皆様と進めることで、地域内分権の目標である「地域の個性や特性が生かされ、地域力が発揮されるまちづくり」を目指しています。</p> <p>【地域内分権の見直しに関する見解】 ・市の方針ですので現時点では見直す考えはありません。新生上田市のまちづくりの基本方針として取り組む地域内分権については、各ステージ(第1ステージ～第4ステージ)を設け、段階的に取組を進めています。これまで、地域自治センター、地域協議会の設置やわがまち魅力アップ応援事業の創設、自治基本条例の制定など、第3ステージまでの取組を進め、平成24年度からは、最終の第4ステージを迎えました。今後も市の押し付けとならないよう、地域内分権の意義や効果を市民の皆様と共有するなかで、上田市に合った分権型自治を推進してまいります。このような取組を進めるなかで地域リーダーが現れることを期待しています。</p> <p>「追加資料1-2(P2)」参照</p>	
<p>5</p>	<p>【質問】 上田市が狙いとしている「コーディネーター」の養成は座学では無理と思う。(「事業の目的」理想論?) どうしても養成したいのなら、市職員を対象に研修等で、商業・地方経済、地方行政、工・農学等の知識をもった「者」を養成し、かつ、認定すべきと思うが見解は？ (参考) 受講修了者の見解は？(コーディネーターできる自信?)</p>	<p>・ご指摘のとおり、市職員のスキルアップは必要です。一方、地域づくりに関心をお持ちの住民の皆様にも講座を通して更なる地域づくり活動へと発展させていただきたいと考えています。また、講座を通して住民相互のネットワークづくりや情報交換の場づくりの機会も提供できるものと考えております。 修了者のご意見・ご要望などは「追加資料1-1(P1)」をご覧ください。</p>	

テーマ「地域リーダーの育成」

【 市民評価委員の質問及び意見と事務事業担当課の回答 】

対象事業名 2 わがまち魅力アップ応援事業

No.	質問・意見	担当課の回答・考え方	担当課
1	<p>【意見・提案等】</p> <p>・県の類似の制度「地域発元気づくり支援金」H19年度から実施の目的、趣旨の内容も参考に検討しました。</p> <p>事業の支援(申請)内容を県事業並みにきめ細かく提示する必要があるのでは？(例)ハードとソフトに分ける。補助限度額、下限の金額、事例に事業区分(教育・文化部門など)</p>	<p>・ご指摘の点は、今後の検討課題であると考えます。</p> <p>市では市民の参加と協働によるまちづくりや地域内分権を推進するため、わがまち魅力アップ応援事業により、まずは、地域の課題解決等に向けて住民の皆様の主体的な取組を引き出すことを狙いとして実施しています。事務的には、個々の事業をイベント、地域環境整備など一定のジャンルに分類しています。</p> <p>地域協議会や自治会、市民活動団体のご要望も踏まえて制度改正したところですので、今後の応募状況やご指摘の点も参考にさせていただき、地域の主体的な取組を促進するための地域で決められる予算(地域予算)のあり方について、地域協議会を始めとする市民の皆様とともに検討したいと考えています。</p>	
	<p>・市財政も厳しい中、今年度から限度額の増額等充実させたが、今後もこの改制度で展開できるのでしょうか。募集事業数をあらかじめ決めておく必要もあるのでは？</p>		
	<p>・全体的に継続して効果が期待できる事業が50%くらいでしょうか？一過性の取組の事業ではなく継続性のある事業を主とした採択方法にしたらどうでしょうか。</p>	<p>・わがまち魅力アップ応援事業は、地域協議会に審査をお願いしていますが、審査に当たっては、公益性、継続性・発展性を見込める事業を重視しています。一過性の事業であっても事業をきっかけに継続的な取組が見込めるものを採択しています。</p>	
	<p>・採択(審査)は地域協議会と市関係者とのことですが、協議会のメンバーは任期(2年)再選されているのでしょうか。新しいメンバー(公平性、また違った視点等)による審査ができれば発想の転換など期待できます。</p>	<p>・地域協議会委員の任期は1期2年、最大3期6年となっています。平成24～25年度の第4期地域協議会委員では約半数の委員が新規となっています。</p>	
	<p>・一件一件については検討できませんでしたが、類似事業が多いということは、着眼点と同方向に向いている感じがします。まちづくりと共に人づくり(地域の人材育成)へと結びついていく取組の事業に期待したい。</p>	<p>・わがまち魅力アップ応援事業を実施する中で地域から認められるリーダーが育成されることを期待しています。</p>	
	<p>・事業実施後、大賞、特別賞など選んで表彰することも参加した人々のモチベーションも上がり、一層創意工夫され、他事業参加者の参考、手本に結びついていくのでは？</p>	<p>・地域内分権の確立に向けて、市では地域協議会、自治会、市民活動団体等と市によって構成する「地域経営会議」の設置を市内各地域に提案しています。</p> <p>地域経営会議は、地域の皆様と行政が一緒になって地域の課題解決に向け、地域のまちづくり計画などを検討し、実行していく組織(ネットワーク)と考えています。</p> <p>この場において、わがまち魅力アップ応援事業の報告会を開催していただきたいと考えています。ご指摘の点も地域の発意で行われることを期待します。</p>	

	<p>・事業の展開、継続のためには、財源としての補助金はクリアしても、事業に関わる人材は高齢者、固定した者に偏った一部の人となり、まさに地域づくりは、人づくり（人材育成）も一緒に考えなければならない、大きな課題として一つ一つの事例から考えさせられました。</p>	<p>・ご指摘のとおり、市でも地域の主体的な取組を通して人づくりにつながることを期待しています。</p>	<p>市民参加・協働推進課</p>	
<p>2</p>	<p>【質問】 補助金の交付決定基準(審査基準)を具体的に教えてほしい。また、この基準は地域協議会事務局も熟知しているのか。(厳しい財政状況時、この事業に投入する余裕があるのか、疑問が残る。(補助期間が過ぎれば荒廃等の恐れのある事業、市の行政の一環として実施すべき事業等も含まれるのでは…商工部・農林部・教育委))</p>	<p>・地域協議会に対しては、「追加資料2-1(P3)」により審査をお願いしています。この基準について各地域協議会事務局が事前に委員に説明しています。 一律、公平、公正な行政サービスも当然必要ですが、地域課題の解決、地域満足度を高めるには、市民の皆様の参加、参画も必要であると考えています。市としても地域の皆様の主体的な取組を市内挙げてフォローアップいたします。</p>		
<p>3</p>	<p>【質問】 施工地区の現地調査を是非お願いし、その結果を踏まえて意見を欲しい。</p>	<p>・事業を審査する地域協議会では事業実施主体から事業報告を求めたり、地域協議会が独自に現地調査を実施するなどしています。今後は、地域内での情報共有などを図っていただくため、各地域で事業報告会を開催したいと考えています。</p>		
<p>4</p>	<p>【意見】 ①本制度は対象事業、補助対象経費からみて、特定地域ではなく上田市の魅力アップにつながる事業に限定する狙いがあったものと推察する。しかし、「実施事業の内容」は特定地域のみ魅力？に関連する事業がほとんどと思われ疑問を感じる。制度創設の原点に戻るべきではないか。</p> <p>②できないのであれば、交付基準をより厳格にするほかに、採択終了年度を明確にするとともに、事業完成後の維持管理等の経費について、自治会の規約等に明確に記述すべきではないか。</p> <p>③財源は、振興基金、旧市町村の持ち寄り基金といえども、一般財源と同一のものと考えるべきだ。</p>	<p>① 本事業は、地域限定の事業と全市的な事業の2本立てとなっており、住民の皆様が行政まかせにせず、各地域で主体的に地域課題の解決や活性化等を図ることにより、地域の個性や特性が生かされ、地域力が発揮されるまちづくりが進んでいくことを期待するものです。 このため、地域ごとの課題解決に向けた方針となる「地域まちづくり方針(追加資料2-2)(P4)」の策定に携わった上田中央地域協議会など市内9地域協議会において地域固有の事業の審査をお願いしています。全市的な事業については、各地域協議会の正副会長で構成する上田市地域協議会正副会長会において審査をお願いしています。</p> <p>② わがまち魅力アップ応援事業は地域の主体的な取組を促進することを狙いとしていますので、厳格化するばかりでは従来の行政主導となり、地域特性を生かした住民の主体的な取組が促進できないのではないかと考えています。 この事業をご活用いただくことにより、行政では難しい地域の特性を生かした独創的な事業に取り組み、地域への愛着を高めるなかで、地域づくりを更に進めていただきたいと考えています。こうした繰返しや事業の発展により、地域リーダーが現れることを期待しています。</p> <p>③ ご指摘のとおり、公金ですので地域協議会に審査をお願いして「地域まちづくり方針」との整合、地域の実情に照らして必要な事業かどうか等、住民の視点で審査をお願いし、市は審査結果を尊重することにしています。今後も一般財源と同一のものと認識して取り組んでまいります。</p>		

テーマ「地域リーダーの育成」

【 市民評価委員の質問及び意見と事務事業担当課の回答 】

対象事業名		3 地域福祉推進リーダー育成事業	
No.	質問・意見	担当課の回答・考え方	担当課
1	<p>【質問・追加資料】 地域における福祉委員の活動は、あまり浸透していないように見受けられるが「地域福祉推進リーダー養成講座」受講後ネットワークの構築、地域のボランティア活動の育成・推進等に進展がみられるのかお聞きしたい。 また福祉委員の活動について全部でなくても先進的な地域でもよいので具体例があれば資料をいただきたい。(私は地域で介護予防を目的とした高齢者支援のボランティア活動をしているが、一度も福祉委員が関わってきたことがない)</p>	<p>「地域福祉推進リーダー養成講座」は、民生児童委員、福祉推進委員、自治会役員などに地域福祉の現状や課題を理解していただくことにより、地域福祉関係者の資質向上を図ることを目的にし、これまでに5回開催しました。 (H24年度講座については「追加資料3-1(P26)」参照)</p> <p>これにより一部の自治会では、福祉関係者で組織した支部社協(自治会単位の組織。全自治会に設置)を通じ、住民支え合いづくりやボランティア組織の立上げなど関係者間の連携が進んでいます。 (「追加資料3-2(P42)」参照)</p> <p>しかし、ほとんどの自治会では、委員がそれぞれの役割を果たしていますが、連携し協働で取り組むまでには至っていません。 今後は支部社協を母体とし、連携協働につながる基盤(支部社協など)を整備しながら、地域福祉を推進するリーダーを段階的に養成していく予定です。</p>	
2	<p>【意見・提案等】 ・事業の内容見直し、改善の必要性として、福祉分野に関わらず、地域の関係者、関係機関による連携、チームワークが課題として挙げられます。主体となる市民を中心とした時、福祉も点→線→面へ、より実務性の学べる内容にしたらどうか。</p> <p>・地域福祉に関わる者の役割を明確にして、より具体的な場面に即した(例えば、事例から学ぶ研修)地域の課題解決に向けた関心の持てる内容の講座にしたらどうか。</p> <p>・受講者の市民への発言の場、機会も必要ではないか。(民生、自治会など)</p> <p>・地域福祉推進という分野から鑑み、事業の上田市社協への委託化も検討されたい。</p> <p>(参考) ・県社協にて「地域福祉コーディネータ養成 研修、基礎、技術、応用」15講座1年間実施しています。(対象者:市町村社協、市町村福祉職員、福祉関係機関相談支援職員) H22年から3か年設定計画 受講料1講座500円(資料代) 内容も日常的に福祉業務に関わっている職員対象ゆえ、専門性と課題解決に向けたスキルアップを目指したもの</p>	<p>・市では、「第二次上田市地域福祉計画」(計画期間:平成25年度～29年度の5年間)を昨年度末、策定し、この計画に基づき、本年度から地域福祉を段階的に推進してまいります。これまでは、まず地域福祉推進の核となる関係者の皆さん向けの講座を開設してまいりました。これからは、委員からのご指摘いただいたとおり、市でも段階的に、点→線→面へと地域全体に広がるよう事業を推進していきたいと考えております。</p> <p>・「第二次上田市地域福祉計画」では、施策の一つとして、地域福祉に関わる者の役割を明確にすることや活動指針を示すこととしています。委員の意見の事例から学ぶ研修などは効果的なものと考えられ、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>・受講者が各種組織を通じて、先進的な取組など受講内容を周知できる機会が設けられるよう取り組んでまいります。</p> <p>・本事業は、市・社協・長野大学で構成した実行委員会に委託し、三者で協働して取り組んでおり、社協にも既に大切な一翼を担っていただいております。</p>	福祉課

3	<p>【質問】 高齡化対策の一環としても、地域福祉の推進は必要と思う。しかし、受講対象者が民間人(自治会員等)では無理がある。よって、受講者は、市が選定した有識者(福祉OB、看護師OB等)を対象とした、実践的な講習とすべきと思う。ただし、報酬は、市職員に準ずる等、市が主導すべきと思うがどうか。</p>	<p>地域福祉の推進には、地域の実情を最もよく理解し活動している地域の福祉関係の皆さんがキーマンとなります。それらの皆さんに地域福祉の核となっただけ、それぞれの役割を担い、地域に福祉の輪を広げていく方法が相応しいと考えます。</p> <p>今後も、それらの皆さんと市や社協、そして長野大学などが協働しながら事業を推進していくことが望ましいと考えます。</p> <p>市としても、協働連携が更に進み、実効ある講座となるよう取り組んでまいります。</p>	
---	---	---	--

テーマ「地域リーダーの育成」

【 市民評価委員の質問及び意見と事務事業担当課の回答 】

対象事業名	4 農ある里山暮らしのすすめ講座 5 川西里山・水辺をつなぐ会		
No.	質問・意見	担当課の回答・考え方	担当課
1	<p>【質問】 「塩田公民館里山・農業講座関係」「川西里山・水辺をつなぐ」講演会の受講者に他地域の受講者がどのくらいいたのか割合と地域が分かったら教えてください。</p>	<p>平成24年度公開講座で9回実施し、受講者延べ263名。塩田地区以外の参加者は105名約40%(その内訳は市内69名65%、市外36名34%)でありました。 市内は上田原、御所、岡、生田、中央です。 市外は青木村、長和町、東御市、小諸市、立科町、南牧村、佐久市、千曲市、山之内町です。</p> <hr/> <p>22年度講演会参加者60名中2名が他地区(塩田地区) 24年度講演会参加者62名中7名が他地区(中央、西部、城下地区)</p>	<p>塩田公民館</p> <hr/> <p>川西公民館</p>
2	<p>【意見・提案等】 事業区分から両事業ともに、環境保全、景観形成、農業の振興でしょうか。わがまち魅力アップ応援事業内にも同じような事業が行われています。内容が類似している点で、他公民館と連携、また一部統合した取組も、お互いの創意工夫が取り入れられ、幅広い活動が可能では？</p>	<p>塩田公民館では塩田地区の地域課題をとらえ、講座開設をしてきております。今回の里山につきましては、公民館運営協議会で里山の荒廃や農地の耕作放棄地が増えてきていることから、現実に目をむけ、農村地域として地域活性につなげて行けないかと相談があり、始めたものです。公民館だよりで講座実行委員を募集しました。長野大学の古田先生も参加していただきました。関心のある皆さんが集まり、はじめて2年が経ちました。委員さんのご意見にもあります公民館や地域連携はこれからと考えております。創意工夫や幅広い活動検討してまいります。</p> <hr/> <p>他公民館の講演会等への案内は行なっていますが、今後連携可能な取り組みについては検討していきたいと考えます。つなぐ会やそれぞれ加入している団体の活動が活発となるよう他地区の団体との情報交換や連携も模索していきたいと考えます。</p>	<p>塩田公民館</p> <hr/> <p>川西公民館</p>
3	<p>【質問】 この種の事業を、なぜ教育委員会が担当部局なのか、社会教育法の拡大解釈ではないか。特に「農ある里山暮らしのすすめ講座」は市長部局の本来業務と思うが見解はどうか。</p>	<p>塩田公民館では塩田地区の地域課題、生活課題をとらえ、講座開設をしてきております。教育機関として地域の要望で学びたいテーマが出されたとき、学ぶ機会の提供として、講座開設しました。この講座は長野大学とも連携で取り組んでおり、内容も農業、林業、食文化、景観、環境問題、福島農業者支援と多義にわたっており、学びの場としての講座開設になっております。</p> <hr/> <p>川西里山・水辺をつなぐ会は、生活していくための環境がより良いものになるように、学習活動、実践活動を行ない、人やグループを結びつけ、地域の連携を深めていくことを目的としています。その活動を支援・コーディネートすることは公民館の役割と考えます。</p>	<p>塩田公民館</p> <hr/> <p>川西公民館</p>

4	<p>【意見・提案等】 「農ある里山暮らしのすすめ講座」</p> <p>・公民館事業の一つとして活動・継続されれば、農業、山林業に関わるテーマを決めて、年度ごとに積み重ね、実績を上げていく中で、市民の中に特技、趣味等持っている人に着目していく。(人材育成もボランティアから、有償ボランティアへ) また、頑張っていて参加、協力している人を評価する仕組みづくりをする。(支えている、支えてきた人を地域の中で評価し、褒められてうれしい楽しい感覚も、人材育成の一役となるのでは) 参加地域の住民意識も大切(自分たちのこととして捉える姿勢)</p> <p>・受講者から、終了後のアンケート調査をいただき、次のイベントへつなげる。(改善、見直しにもなります)</p>	<p>貴重な提言ありがとうございます。委員さんよりご意見をいただき、講座参加者に目を向けてみました。着実に特技、趣味等持っている人で経験や見識をお持ちな人が多く参加していることに気づきました。また最近アンケート調査を行っており、平成25年度事業にいかしていきたいと考えておりますし、アンケートも今後続けてまいりたいと考えます。</p>	
5	<p>【質問】 「農ある里山暮らしのすすめ講座」</p> <p>講座の内容等から推察するに「有機農業」が主テーマのようであるが、座学でリーダーを養成することは不可能だ。市内に有機農業者がいると思うので、その者に協力を仰ぐことが先決だと思うが見解はどうか。 (この件は農林部の業務と思う)</p>	<p>農ある里山暮らしのすすめ講座ですが、最初は里山の荒廃と農業を考える講座として始まりました。実行委員会形式で公募をし、講座の内容も相談しながら、講座開設してきております。また長野大学とも連携してきております。平成23年に福島県で有機農業を40年実践して来られた丹野喜三郎さんが上田に移ってきました。何回かお話を聞いたり、栽培している作物を食べさせていただく中で、参加者の有機農業への関心が高まってきたのは事実です。参加者の中には有機農業に関心のある方も多く参加しております。ただ目的は里山の荒廃、農地の耕作放棄地の問題が根底にあり、本年はやさしい有機農法と里山の利活用が中心テーマになります。座学から関心のある方は長野大学で進めている実践講座に参加する形ができつつあります。講座の実行委員のなかに有機農業者が含まれているほか南相木村在住のフードコーディネーターの細井千恵子さんにもご指導いただいております。長野大学の古田教授に指導もいただき進めており、今後行政サイドとの連携も考えなくてはと思うのですが、講座運営が手一杯の感もあります。</p>	塩田公民館
6	<p>【意見・提案等】 「川西里山・水辺をつなぐ会」</p> <p>・賛同する団体もいくつかあります。(一部2~3の会では、わがまち魅力アップ応援事業に応募) 今後NPO法人として活動されてもいかがでしょうか。</p>	<p>加入している団体によって規模や活動形態が様々であり、それぞれの会の活動に重点を置きながら、ゆるやかな連携で活動しています。あくまで主体は個々の活動にありますので、時間をかける中で川西地域全体としての活動が定着した際には、NPO法人化することも一つの選択肢になるかと思えます。今後の会のあり方について加入団体の皆さんと検討していきたいと考えます。</p>	

7	<p>【質問】 「川西里山・水辺をつなぐ会」</p> <p>川西地区の「里山」とは何か。定義はあるのか。山林や田畑の荒廃は、川西地区に限ったものではない。市として取り組む問題と思うが見解はどうか。</p> <p>なお、山林の(私有地)の荒廃対策として山林の下草刈り、竹の伐採等々の「お助け隊」みたいな団体の創設はできないものか。</p>	<p>「里山」の定義は明確にはありませんが、環境省では「原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域」としています。公民館では里山講座の開催にあたり、大都会と手付かずの自然の中間地帯、人と自然の共存地帯と考えました。原生林でなく人が手を加えてきた二次的自然 山林、草地、畑、水田、河川、集落などです。従って、川西地区は地域全体が里山と考えます。山林や田畑の荒廃については当然市全体として取り組む課題と考えますが、一つ一つの小さな住民主体の取り組みが広がれば川西地区に限らず市全体の取り組みになっていくと思います。「お助け隊」については、市全体で取り組む問題として農林部門で一元的に取り組む形が最良と考えます。</p>	川西公民館
---	--	---	-------